くまもとの
河川と海岸
River & Seaside in Kumamoto

熊本県土木部河川港湾局河川課
〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号　TEL 096-333-2506
E-mail:kasen@pref.kumamoto.lg.jp　熊本県HP：http://www.pref.kumamoto.jp/
2025.3

河川・海岸をとりまく現状と課題

近年は、気候変動の影響により、時間雨量100mmを超えるようなゲリラ豪雨や線状降水帯の発生など、水災害の激甚化・頻発化が懸念されています。本県でも令和２年７月豪雨をはじめ、数年おきに大規模な災害が発生しています。

このような災害に対処すべく、本県では流域全体のあらゆる関係者と連携して取り組む「流域治水」の推進を図り、流域の総合力で県民の「安全・安心」の確保に取り組んでいます。

くまもと新時代共創総合戦略の概要

基本理念

県民みんなが安心して笑顔になり、
持続的で活力あふれる熊本の未来を共に創る
～世界に開かれた熊本、世界へ羽ばたく熊本～

県民の命、健康、安全・安心を守る

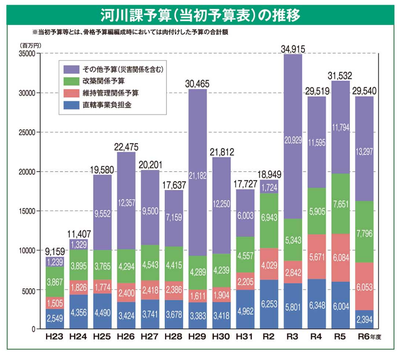
くまもと新時代共創基本方針のうち、以下に沿った取り組みを行います。

施策１ 「緑の流域治水」を核とした創造的復興
- 「緑の流域治水」の更なる推進による一日も早い安全・安心の実現

施策２ 災害に強い県土づくり
- 防災力の強化
- 防災・減災、国土強靭化に資するインフラ整備

河川課予算（当初予算表）の推移

※当初予算等とは、骨格予算編成時においては肉付けした予算の合計額



河川・海岸の概況

豪雨に対する治水安全度の向上を目指し、河川改修等に取り組んでいます。

令和6年4月現在

区分	水系数	河川数	延長(km)
一級河川	8	260	1,735
二級河川	81	148	627
計	89	408	2,362

出典：河川現況調書　※大臣管理区間及び熊本市管理区間を含む　※水系数には大臣川水系を含む

令和6年3月現在

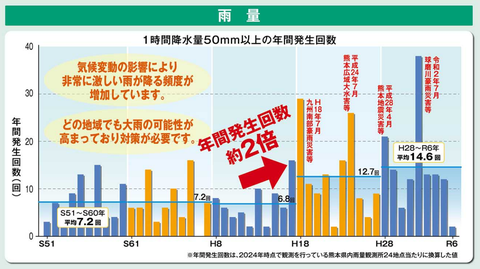
県管理河川の整備率	56.8%

令和5年3月現在

区分	海岸線延長(km)
有明海沿岸	295
天草西沿岸	221
八代海沿岸	550
計	1,066

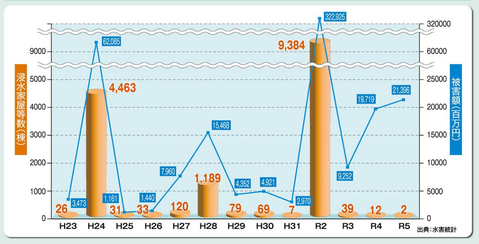
出典：令和5年度版海岸統計

雨　量



※年間発生回数は、2024年時点で観測を行っている熊本県内雨量観測所24地点当たりに換算した値

豪雨及び暴風雨等の被害

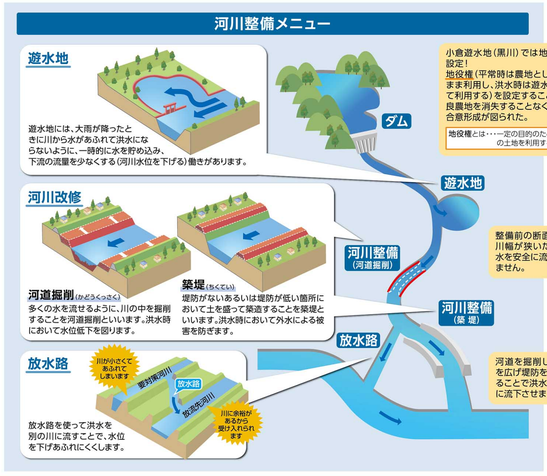


近年の被害状況

河川整備

河川整備は、洪水時の水位を下げることが基本となりますが、その具体策としての施設設備にはいろいろなメニューがあります。地域の特性を踏まえた河川整備メニューを組み合わせ実施することで治水安全度の早期向上をめざします。

河川整備メニュー



小倉遊水地（黒川）では地役権を設定！
地役権（平常時は農地としてそのまま利用し、洪水時は遊水地として利用する）を設定することで、優良農地を消失することなく事業の合意形成が図られた。

地役権とは・・・一定の目的のため、他人の土地を利用する権利。

整備前の断面では、川幅が狭いため、洪水を安全に流下できません。

河道を掘削し、川幅を広げ堤防を設置することで洪水を安全に流下させます。

多自然川づくり

周辺の自然環境に配慮した河川整備を行い、河川環境の保全に努めています。

景観を生かした護岸整備の事例

河川環境に配慮した堆積土砂掘削の事例

海岸整備

海岸整備メニュー

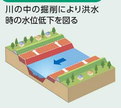
高潮対策　堤防を高くより強固にすることで、堤防の背後にある民家等を高潮被害から守ります。

耐震対策　耐震化対策を行うことで、地震による堤防等の崩壊を防ぎます。

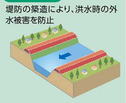
老朽化対策　老朽化した施設の更新・修繕を行うことで、施設の延命化を図ります。

流域治水

河道掘削（かどうくっさく）
川の中の掘削により洪水時の水位低下を図る



築堤（ちくてい）
堤防の築造により、洪水時の外水被害を防止

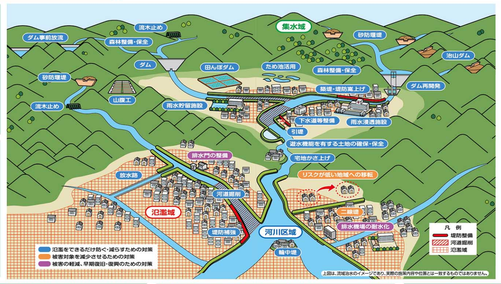


河川の整備だけでなく、遊水地の活用や森林整備、避難体制の強化を進め、更に、自然環境との共生を図りながら、国、県、流域市町村、企業、住民が協同し、流域全体の総合力で安全・安心を実現していきます。

田んぼダム
水田に雨水を貯留し、排水路への流出を遅らせ湛水を軽減

遊水機能を有する土地の確保・保全
洪水の一部をとどめておくことのできる河川沿いの土地を確保し、遊水機能を保全

雨水貯留・雨水浸透施設整備
一時的に雨水を貯留し、河川への雨水の流出を抑制



森林整備・保全
筋工・柵伏保安林における災害防止機能発揮

自然環境を活かした地域活動の取り組み
湿地保全活動による生物多様性の保全

洪水浸水想定区域図
河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を公表し、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保

マイタイムライン
自然災害から自身を守るための防災行動計画作成を推進

くまもとマイタイムライン情報HPカイト(3)
くまもとマイタイムラインガイドブック(6)

災害報道連携会議
報道機関と連携し住民へ早期避難の呼びかけを実施

早期避難を呼びかけるテレビスポット
出典：熊本県防災機関等事例集を参考に資料

河川整備（令和2年7月豪雨）

令和２年７月豪雨では、県南地域をはじめ県内各地で多くの公共土木施設の災害が発生しました。通常の災害復旧事業ほか家屋等の浸水被害が発生した南関町と荒尾市を流れる関川及び芦北町の佐敷川では、災害復旧助成事業※により、再度災害防止を行なっています。

※河川等の災害が激甚であって、災害復旧工事のみでは十分な効果を期待できない場合において、助成費（改良費）を加えて一定計画の下に施行する改良事業。

万江川河川災害復旧事業（山江村）

関川河川災害助成事業（南関町）

佐敷川水系河川災害助成事業（芦北町）

県及び市町村管理の公共土木施設災害査定結果

	県		市町村		計	
	箇所数	金額（百万円）	箇所数	金額（百万円）	箇所数	金額（百万円）
河　川	778	25,199	994	10,670	1,772	35,869
道　路	435	10,605	1,032	15,200	1,467	25,805
海岸（建設）	0	0	1	3	1	3
海岸（港湾）	1	9	2	26	3	35
橋　梁	4	434	21	2,402	25	2,836
砂防施設	376	8,894	0	0	376	8,894
急傾斜地崩壊防止施設	5	76	0	0	5	76
下水道	0	0	17	6,494	17	6,494
公　園	0	0	11	1,114	11	1,114
港　湾	10	742	1	6	11	747
合　計	1,609	45,960	2,079	35,914	3,688	81,874

※熊本市所管分を除く
※国による権限代行分を除く
※村道代行は県分に含む
※箇所数及び金額は7月豪雨や台風等に起因して発生した災害の査定結果の合計

ソフト対策

治水対策において、施設整備（河川改修等）のみの取組には限界があるため、ハード対策とあわせてソフト対策の充実を図り、総合的な防災・減災対策を推進します。

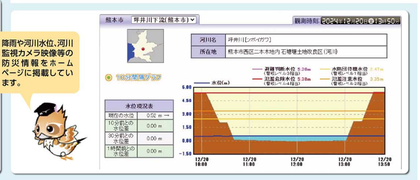
統合型防災システム

河川監視カメラ映像　御船川（御船町）

豪雨時も川の状況を確認できます！

降雨や河川水位、河川監視カメラ映像等の防災情報をホームページに掲載しています。

防災情報くまもと

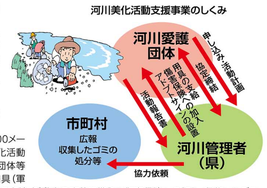


河川の維持管理

くまもとマイ・リバー・サポート

住民の方々が近隣の河川の清掃活動等を通じて、河川に親しみを持っていただくことで、熊本の河川がさらに美しくなり、河川環境の向上につながるように、平成16年度からボランティア団体等と協働して、河川の清掃や除草等の美化活動に取組んでいます。

県管理河川でおおむね100メートル以上にわたり、河川美化活動を行っているボランティア団体等と協定を締結し、必要な用具（軍手、ごみ袋、草刈機用燃料）の支給、活動中の事故に備えた傷害保険への加入、収集したごみの運搬・処分、活動報償金の支給などの支援を実施しています。



一日河川パトロール

河川愛護に係わる啓発活動の一環として、河川を常に美しく保ち、正しく安全に使用することの大切さを学んでもらうことを目的とした「一日河川パトロール」を毎年実施しています。

一日河川巡視員に任命された小学生は、水質調査や水生生物の観察等を通じて、河川の役割や河川美化の大切さを体感します。

〈小学生の感想〉
☆川にはたくさんの生き物がいて、その生き物を守るためにゴミを捨てたりしないようにしたいです。また、川にゴミがあったら拾いたいです。
☆これからも川のことについて勉強して、川のことを知りたいです。
☆ぼくは前から川が好きでしたが、もっと好きになりました。

長寿命化計画

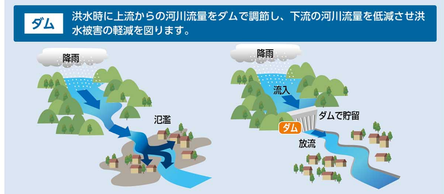
河川用ゲート及びポンプ設備は、高度経済成長時以降に多く建設されており、今後耐用年数を超えた施設が急激に増加するため、老朽化に伴う維持管理費用の増加が懸念されています。このような現状を踏まえ、施設の信頼性の確保や長期的な維持管理費の縮減と平準化を目的として、大規模な施設について長寿命化計画を策定し、施設の延命化措置を行っています。

河川維持管理計画

河川内の老朽化する河川管理施設等を適切に維持管理するため、「河川維持管理計画」を作成し、従来の対処療法的な対応から予防的な修繕・更新へ転換し、効率的かつ効果的な河川の維持管理を実施しています。

ダムの概要

ダム　洪水時に上流からの河川流量をダムで調節し、下流の河川流量を低減させ洪水被害の軽減を図ります。



熊本県内のダム

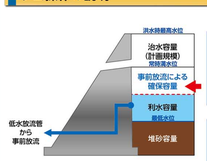
熊本県土木部では6ダムを管理しており、市房ダム・氷川ダムがゲート操作を行うダムで、亀川ダム・石打ダム・上津浦ダム・鎌木ダムがゲート操作を行わないダムです。その他、県内には国が管理する4つのダムと発電やかんがい等を目的とした18のダムがあります。

情報発信

熊本県土木部の所管するダムではSNS等を活用して情報を発信しています。

①熊本県統合型防災情報システム
②熊本県防災情報メールサービス
③Yahoo! 防災速報
④X(旧 Twitter)

ダム操作の説明

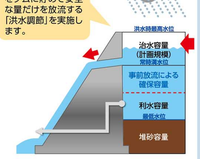


[事前放流]
大雨が予測される場合に、事前にダムの空き容量を確保（利水容量の一部を使用）するための放流

[洪水調節]
下流河川の水位の上昇を抑えるため、ダムに流れ込む水の一部をためて、放流する水の量を調節する操作のこと。

降雨により流入量が増加

降雨により流入量が増加すると、ダムに入ってくる水の一部をダムに貯めて安全な量だけを放流する「洪水調節」を実施します。



[緊急放流]
ダムが満杯になる前に、ダムの下流に放流する量を徐々に増やして、ダムに流れ込んでくる水量に近づけていく操作のこと。流入量よりも多く放流することはありません。
仮に「緊急放流」を行った場合、ダム下流域の降雨の影響も重なって、ダム下流で水位が急上昇する場合があります。
なお、ダムがない場合の流量よりも多く放流する操作は行わないことから、ダムがない場合と比較すると、「氾濫発生リスクの低減（ピーク水位の低減）」、「避難時間の確保」、「氾濫箇所での氾濫被害の軽減」の効果があります。

河川・海岸整備の歴史

熊本県は、東側を九州脊梁山地に囲まれ、西側は、有明海等の海に面していて、梅雨時期には高温多湿の南西気流の影響で、集中豪雨が発生する事があります。このため、古来から幾度となく水害に見舞われてきました。

（戦国・江戸期頃）
熊本市中心部を流れる白川等、県内の河川については、戦国・江戸期頃から主に領土防衛や新田開発を目的として河川工事が行われてきました。
特に大規模な河川工事を行ったのは加藤清正であり、城下町を形作る白川・坪井川の流路変更、農業用の堰や鼻ぐり井出などの水路の建設、農地や堤防を守るための囲塘（くつわども）、石刎（いしばね）等々多くの遺構が残されています。

（～江戸後期）
江戸後期までに大規模な干拓等が行われるとともに、通潤橋などの石造りアーチ橋の術が発達していました。

（～現代）
その後、大規模な県内河川の改修が行われたのは昭和期以降で、戦前には、緑川・球磨川の改修工事や坪井川・井芹川の流路変更工事等が着手され、戦後は、エネルギー政策と連携したダム建設等が開始されました。また、昭和２８年の大水害を契機に白川の改修が開始されるなど、県内の河川改修は災害等を発端として順次開始されることとなりました。

戦国・江戸期頃　土木の神様といわれる清正の神髄を示す

清正の治水工事

熊本城は、東の坪井川、西の井芹川、南の白川に囲まれた要塞の地でした。しかし、蛇行する白川が氾濫すると、合流していた井芹川に逆流し、付近一帯は大被害を受けていました。
そこで、清正は蛇行部分をショートカットして、白川を完全に外堀とし、坪井川を井芹川とつないで内堀に代用しました。また、白川と井芹川の合流地点に、石塘（荷船運即）を築いたことにより、井芹川は白川と合流することなく、西へ流れ海に注ぐようになりました。
清正が行った工事は、敵を防ぐだけでなく、治水の面からも大きな効果がありました。

江戸後期～近代　日本の石橋のパイオニア集団

種山の石工たち

熊本県には約３２０基の石橋（目鑑橋）が残され、江戸時代に造られた目鑑橋では全国一の数となります。中でも、緑川水系の東里町霊台橋や山都町通潤橋など、江戸時代の壮大な目鑑橋や、県南地域の大小の目鑑橋を手がけた技術者は、全国的に「肥後の石工」として知られ、江戸時代後期から明治・大正時代にかけて、県内はもとより県外にも、通路や通水のための優れた目鑑橋を架けています。

石刎（いしばね）（水制工）

洪水時、川の流れを遮ってるために、石刎を張り出すと、水の勢いが和らげられ、流れが中央へ戻って、堤は壊れないことになります。